

てきちんと向き合う医療の風潮が生まれています。そのために、このような診療形態のところは、予約制で自費診療になっているところが多くなっています。

4. 臓器別診療から

心身の総合医療へ

これまでは、たとえば更年期の患者さんが、めまい、不眠、うつ、関節痛などの症状が出て、ひとつひとつの症状に対して受診していました。脳外科、内科、精神科、整形外科など。医師たちは、みなそれぞれのことを言いました。患者さんは混乱してしまい、自分はどうにかなってしまったのではないかと不安になるばかりでした。女性外来では、症状のひとつひとつに対して検査・治療・投薬がなされるのでなく、不調をもたらしている背景、つまり女性ホルモン、働きや、生活（食生活、睡眠、運動、仕事、休養のありかたなど）、体質、心理的狀態に合った治療やアドバイスをしていきます。

5. 代替医療や緩和ケアの活用

また、患者さんの症状をやわらげる、漢方やハーブ、アロマ、整体、鍼灸、気功、マッサージ、サプリメントなどの代替医療も取り入れられてきています。心理カウンセリングなどのメンタルケアも重視されるようになりました。患者さんたちのセルフヘルプグループ、地域の女性ネットワークも、連携しています。

さいごに

これまでの医療が、病気の診断と治療“だけ”を目的として発展してきたのに対して、女性外来は、新しい病気に関する情報を提供したり、健康を保ち病気を予防すること、痛みやつらい症状の緩和、こころの問題、女性が自己価値を高め自己選択してゆく支援などを仕事にしています。女性とその家族、地域がそれによって安心してくらし、ゆけるための、環境整備のお手伝いともいえるでしょう。

知ってまあか

『ジェンダー統計』

ジェンダー統計とは、『ジェンダーの視点で男女間の不平等の状況を数量として把握するための、性別区分を持つ統計』です。(岩波女性学辞典より)国連ではこうした統計を国連女性白書『世界の女性』として5年毎に発行しています。日本では平成11年、男女共同参画社会基本法を制定し、毎年内閣府の編集で男女共同参画白書を発行しています。ジェンダー統計は、その附属統計として公表され、衆参両議院における女性議員数の推移、国の審議会における女性の参画状況、就労状況等が示されています。エガールでは、Vol.9以降にジェンダー統計を掲載しています。

エガールVol.11のジェンダー統計(町・市議会議員選挙)において、誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

(誤)

年度	立候補者			当選者			投票率		
	総数	女性数	女性割合	総数	女性数	女性割合	総数	女性数	女性割合
平成14年度(2002年度)	39	10	25.6	38	10	26.3	42.6	45.2	39.9

旧保谷町の第1回目の町議選では、2名の女性が初当選をはたしました。また、26年の旧田無町の投票率は90%を越えています。女性の投票率は常に男性を上まわっていますが、立候補者数・当選者数ともに女性の比率は低迷しています。また、男女ともに投票率は年々低下し続けており、政治への関心の行方が懸念されます。

(正)

年度	立候補者			当選者			投票率		
	総数	女性数	女性割合	総数	女性数	女性割合	総数	女性数	女性割合
平成14年度(2002年度)	39	11	28.2	36	11	30.6	42.6	45.2	39.9

女性の投票率は常に男性を上まわっていますが、平成14年度は、立候補者数・当選者数ともに11名となっています。